

北杜市立中学校再編整備検討委員会（第2回会議） 会議録

1. 会議名：北杜市立中学校再編整備検討委員会（第2回会議）
2. 日 時：令和4年10月13日（木）午後7時00分～
3. 場 所：北杜市役所西会議室
4. 出席者：
（委 員）森本貴代美・桜井彰一・小池雅美・保坂一・白倉美奈子
栗澤正子・日向五十鈴・輿水清司
（事務局）平井参事・鷹左右教育総務課長・川端下政策推進課長・進藤教育指導監
仲山行政改革担当・浅川総務担当リーダー・大久保総務担当
5. 議事
 - （1）前回資料の訂正について
 - （2）北杜市の「中学校の現状」について
 - ①小規模校に関わる中学校の現状について
 - ②北杜市の「学校教育の目指す方向性」について
 - （3）「適正規模審議会の提言」の内容について
 - ①垂直統合、水平統合、組み合わせ統合の3案について
 - ②3案のメリット・デメリット、改善方法について
 - （4）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：3人

議 題

(1) 前回資料の訂正について

(ご意見等は特になし)

(2) 北杜市の「中学校の現状」について

①小規模校に関わる中学校の現状について

(委員長) 事務局から説明がありました。ご質問等ありますでしょうか。

(委 員) 生徒数の推計をみると、今後、ますます少子化が進む予想となっています。令和 16 年度は、全市で 635 名ということで、8 つの中学校が残った場合は、平均で 100 名を下回ってきます。これでは、生徒がかわいそうだと思います。大至急、統合を進め、適正規模にしていくべきと思います。統合はいつ頃までを目安にしなければならないのか、準備の期間を逆算して考える必要があるのではないのでしょうか。個人的には、今の小学生が中学生になる 5～6 年後には、統合していた方が良いのではないかと思っています。

(委員長) 先ほど説明のあった、資料 5 の生徒数の見込みをみますと、令和 4 年度は 1,056 名なのに対して、令和 16 年度は 644 名まで減少するという予想になっています。今のご意見は、このような生徒数の減少に対して、水平統合の方向で対応してはどうかということだったと思います。他はいかがでしょうか。

(委 員) 資料を示していただくことで、現状が理解しやすくなっていると思います。先ほどの説明にもあった通り、クラス数が少なければ、配置される教員数も少なくなります。市内の中学校もこのような状況になっており、すべての教科で教員がそろわないという課題を多くの学校で抱えています。配置されない教科については、授業数が少ないこともあり、他の教科の先生が無免許で教える、非常勤の先生が複数校掛け持ちで対応するということが起こります。市内の中学校では、家庭課・技術、美術、音楽あたりは非常勤講師が配置されるパターンが多くなっています。非常勤の先生は、一生懸命やっただいていますが、授業時間しか給料が出ないという制度的な課題があり、どうしても授業以外に関わりにくく生徒理解がうすくなってしまふ、行事に参加できない、あるいはボランティアで参加しているという心苦しい状況があります。小規模校は非常勤の先生に頼らざるを得ませんが、時給であるため、めいっぱい仕事をして生計を立てにくく、そのような中で無理をして働いていただかないと学校が維持できないという問題があります。北杜市は小規模校が多く、今後も少子化が進むため、このようなケースを増やしてしまう可能性があります。子ども達にとっても、先生にとっても良くない影響が増えていく可能性があります。

それから、少人数の観点から子ども達をみると、メリットもあります。小さいころから一緒に仲良く過ごしており、うまくいっている人間関係の中では生徒にとってはよい環境が生まれています。また、先生が子どもや地域・家庭のことを十分に理解して指導できます。これは、北杜市の教育の良い面だと思います。一方で、そのような人間関係がつかれない場合は、長期間に渡って続いてしまいデメリットにもなります。実際に、そういう事例も多数みてきています。

小規模校には小規模校のメリットがありますが、資料のように少子化が進んでいくと、メリットよりもデメリットが目につくようになるのではないかということを、懸念しています。

(委員長) 教科指導、子ども達の人間関係について、学校現場の意見を補足していただきました。

先ほどから、小規模校という言葉が出てきていますが、一般的には12学級未満の中学校を小規模校と呼んでいます。この定義によると、市内の中学校はすべて小規模校となるわけですが、8学級ある高根中から、単級（3学級）の学校まで、色々な段階があるといえます。

②北杜市の「学校教育の目指す方向性」について

(ご意見等は特になし)

(3)「適正規模審議会の提言」の内容について

①垂直統合、水平統合、組み合わせ統合の3案について

(委員長) 事務局から説明がありました。ご質問等ありますでしょうか。

(委員) 昨年度、審議会に参加していたので様子をお伝えできればと思います。審議会では、どのような方向がよいかについて、意見が割れてしまい一本化できなかったため、このように3つの案をお示しする答申となりました。審議会では、北杜市の教育はどうあるべきかという視点で多くの意見交換がなされ、それぞれの主張は理解できるものでした。垂直統合は、耳慣れない言葉ですが、全国的には小中一貫の学校は増えています。一般的には、小・中を1つの学校として扱い、同じ校舎に小学生も中学生もいる、9年間のカリキュラムがあるというような学校がイメージされます。県内ではそのような事例はまだないですが、小・中が連携して、小中一貫校をつくるという事例は出てきています。増えているということですので、そうさせるメリットも実際にあると考えています。垂直統合の良さとして、小学生と中学生の交流があげられますが、実際にやってみると効果を感じます。私の中学校では、英語の授業で小学校との交流を導入したところ、新鮮な気持ちで自己紹介ができ盛り上がりました。これは、全然知らない子ども同士が交流するパターンなので、北杜市

の垂直統合にそのまま適用できないですが、異学年交流には可能性があると思います。北杜市の場合、お互いを知っている異学年の子ども達という関係になりそうですが、審議会では、年を重ねながら人間関係を深めていくということに賛成する方は多かったと思います。

一方で、先ほどお話した課題は、垂直統合では解決できませんし、本日話題に出ている生徒数は、垂直統合しても増えない、1クラスが2クラスになるわけではありません。示されている案にはメリット・デメリットがあるため、複数の案が示されているのも無理はないと思います。

私達は、審議会が示した3つの案のメリット・デメリットを良く理解した上で、話を進めていかなければいけないと思います。

(委員長) 審議会の経緯を教えてくださいました。垂直統合は、小・中が統合することで学校の規模を大きくし、教員を確保し、小規模校の問題を解決していくことをねらっています。全国的に事例も増えています。それしか選択肢がないというパターンもありますし、水平統合をしつつ小中一貫に取り組むというパターンもあります。

3つの案の理解を深めていくことが重要だと思っています。他はいかがでしょうか。

(委員) 垂直統合を推進すると、小学校まで統合の問題を広げてしまうことになるのではないのでしょうか。私は、垂直統合を進めるにしても、水平統合と組み合わせ、せめて2校くらいを一緒にしながらでないと、生徒数が増えないので意味がないと思います。小さな小学校と小さな中学校を組み合わせても、生徒数が減っていくことはわかっているので、将来的には水平統合しておけばよかったということになるのではないのでしょうか。

(委員長) 垂直統合は、8地区ごとで実施する場合も、複数地区で実施する場合も考えられます。複数地区の場合は、小学校まで統合の問題が広がってしまうが大丈夫かということでした。昨年度のワークショップでは、小学校だけは地区に残してほしいという意見もありました。そのような意味で、別の問題も出てくるのは事実かと思っています。

(委員) 小規模の良さの、子ども達一人ひとりが意見を取り入れてもらいやすいということを実感しています。

一方で、1教科に対して複数の先生がいた方が良くも思います。また、小規模校では、居場所づくりの面で、いくらきめ細かい対応があっても、物理的に対応が難しいところもあるので、水平統合で複数学級がつけられる状態が良いと思っていました。

本日の話を聞いて、先ほどの小中一貫のメリットも気になります。水平・垂直の組み合わせ案は、どういう状態をイメージされていますか。

(委員長) 審議会では、どのようなお話でしたでしょうか

(委員) この組み合わせ案については、あまり具体的なイメージに踏み込んだ話をしていなかったように思います。水平・垂直双方にメリット・デメリットがあり一本化できなかったということがあり、ある地域では垂直、それ以外の地域では水平ということも考えられるということだったように思います。

(委員) 組み合わせという考え方も良いと思います。学級数が多い地域は垂直統合をし、少ない地域は水平統合をした上で、北杜市全体で教育の質を向上させていくということができれば、とても良いと思います。

(委員長) 組み合わせ案の中では、学級数が多かったり、少なかったとしても地域の多くの方が学校を残したいと思うのであれば、垂直統合を選択できるとしています。その際、本日話題に出ているような、少子化やそれに伴う課題があることを十分に理解した上で、考えていくというのが重要かと思いません。他はいかがでしょうか。

(委員) 私は、小さな小学校・中学校も、北杜市で一番大きな中学校も勤務した経験があります。この中で、小学校については、子ども達が生まれ育った地域の方と密接に連携して教育活動をしていくことには大きな価値があると思っています。地域のあたたかなつながりは子ども達に良い影響を与えることを実感してきました。加えて、地域に学校を残したいという声があるのも事実です。なので、できれば小学校は8地区に残した方が良いと考えています。

このことを前提とすると、垂直統合は小さな小学校と小さな中学校の統合となり、現状と変わらなくなってしまいますし、複数地域の統合の場合は、小学校も統合することになってしまうので、地域に学校を残したいとする地域の皆さんの思いをくみ取れなくなってしまうと感じています。

高根中学校は、複数の小学校から進学してくる中学校です。新しい出会い、人間関係が生まれています。中学生には、このような環境が必要だと思っています。

(委員長) ありがとうございます。それでは、3案のメリット・デメリットについて確認しながら、さらに話を進めていきたいと思っています。

②3案のメリット・デメリット、改善方法について

(委員長) 事務局から説明がありました。ご質問等ありますでしょうか。

(委員) 私は、状況を踏まえると水平統合が良いと思います。

学校の数には、通学距離・時間が大きく影響すると思います。通学時間の上限の目安を決めて、スクールバスがどれくらいで到着できるかで検討していくとよいのではないのでしょうか。

(委員長) 通学距離・時間の話がありました。
高根地区は小・中ともにスクールバスを運行していますが、時間はどうなっていますでしょうか。

(事務局) 高根中学校は、3方向にバスを出しています。一番遠いのは、長野県との県境になりますが、そこから30～35分で中学校まで来ることができます。

(委員長) 水平統合の具体的なイメージを検討する際には、通学距離・時間は大きな視点になると思います。他はいかがでしょうか。

(委員) 昨年度のワークショップでも、保護者の方は通学距離・時間をとても気にしていたように思います。学校に通うのが大変になってしまうので、近くに統合してくれるようであれば賛成、遠くになってしまうようであれば反対という感覚があるのではないのでしょうか。北杜市は面積が広く、人口密度が低いため、通学距離・時間について理解を広げる必要があるのではないのでしょうか。全体のことを考えて、皆で譲歩していかないと成り立たない部分が出てくると思います。

(委員長) ワークショップの中でも多くの意見が出されたということでした。スクールバスについては、学校を停留所としてみていただくと理解しやすいと思います。バスに乗れば停留所である学校まで安心・安全に移動できるということもあると思います。
先ほど気が付いたのですが、小・中の先生の乗り入れには、免許の課題があり、すべての先生が学校を越えて教えられるということではないことに注意が必要です。そのような人事上の課題もあるということです。他はいかがでしょうか。

(委員) 令和16年度の644人という生徒数はインパクトがあり、考えさせられるところも多いと思います。ここまで減ってしまうと、学校の適正配置を進めたとしても、今いる世代は通いますが、次の世代がはたしてここを選んでくれるのか、難しいことを考えてしまい意見がまとまっていません。

(委員長) 令和16年度以降のことも考えることも大事ですね。ありがとうございます。第3回も、意見交換をしながら理解を深め、よりよい方向を探っていければと思います。